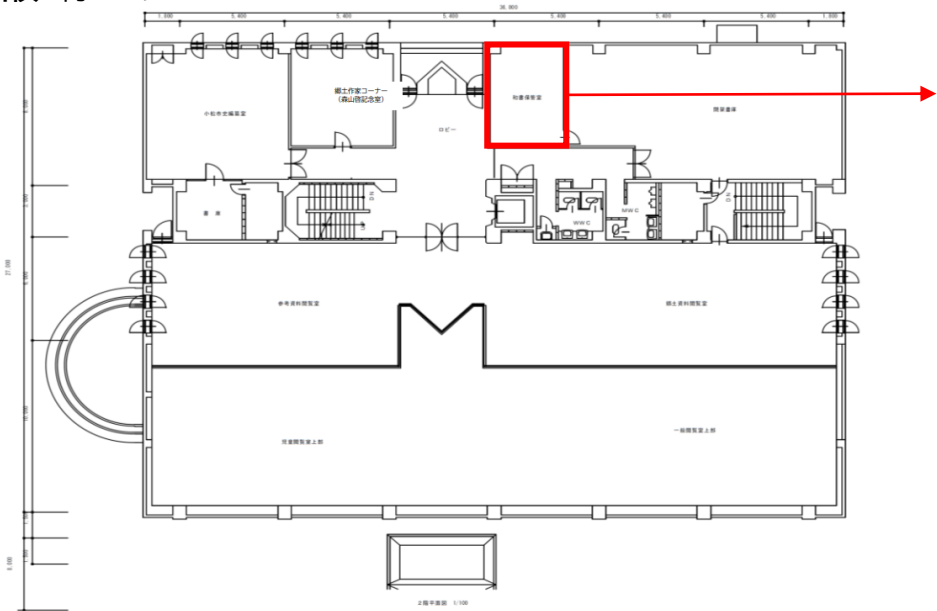


既存図書館の貴重書庫(和書保管室)について

1.場所 小松市立図書館2F 和書保管室(閉架書庫内)

2.面積 約21.9㎡



3. 収蔵物 古文書・和漢書などの和紙刊行物 **2,000点**
※酸性紙のため、紙の劣化に特に留意が必要
▶ **うち95点が、小松市指定文化財「小松旧記」として、特に重要なもの**
- 4.現在の保存環境
- ・虫食い等防止のため、閉架書庫内にさらに別室を設け、「和書保管室」として保存
 - ・空調・防火扉:なし
 - ・劣化、虫食い等防止のため、和書専用の保管室を設けている。
 - ・現在の保存環境は決して良くはなく、**本来であれば、温度／湿度管理及び燻蒸などの措置が施されて欲しい。**
 - ・博物館機能として、適切な保存管理がされる収蔵庫が整備されるようであれば、**同環境で、和書も保存することでよい(特段、貴重書専用の別室としては不要)**
- 5.その他
- ・一般貸出は行っていない(希望者には閲覧のみ許可)
 - ・16ミリフィルム190本、ビデオテープ39本、カセットテープ258本あり。
※16ミリフィルムは、本来であれば適切な保管状況に置くことが望ましい。

小松旧記

種 別	小松市指定文化財 典籍
指定年月日	平成3年11月3日
所 在 地	小松市立図書館

落政時代、小松町には「小松町会所」という行政機関が置かれ、町人の中から家柄、才覚、人望のある者が町年寄や番年寄、肝煎等に選ばれ、町政が行われていた。

小松旧記は、この小松町会所で記録・保存された文書を分類整理し、冊子としたものである。元和元年(1615)から慶応2年(1866)までの251年間、9263通の文書が集成されている。落政期全般にわたる公文書であり、内容は2137項目に分類されている。小松町の政治、経済、文化、教育、宗教などのあらゆる事象から、町人の生活の様子が窺い知れる貴重な資料である。

この文書は、幕末、明治期の整理作業を経て、大正8年(1919)に改編されたもので、和綴本95冊に収められている。また、この95冊分を翻刻したものが、「小松史 史料篇上下」として、昭和15年(1940、市制施行年)に刊行されている。